

ところ会 5月行事案内

江戸城三十六見附を歩くーその5最終回（桜田門駅～大手町駅）

江戸城三十六見附探訪の最終回です。最後は江戸城に入り天守台、東御苑を回って帰りましょう。今回は途中で終わったのでやり直します。

記

■日 時：令和1年5月23日（木）

8:45 池袋行きホーム前方に集合して下さい。

■見学場所及び時間：コース全長約 6km

所沢駅(8:49)準急元町行 …小竹向原乗換…桜田門駅(9:49)

⇒（外桜田門）⇒西の丸大手門（西の丸玄関門：二重橋）⇒坂下門

⇒内桜田門（桔梗門）⇒大手門⇒大手三の丸門（下乗門）

⇒百人番所⇒大手中之門⇒中雀門⇒松の廊下跡⇒富士見多聞

⇒天守台⇒北桔橋門⇒如水会館（城外）⇒平川門⇒二の丸・三の丸

⇒三の丸尚蔵館⇒大手門⇒丸の内線大手町…池袋経由

所沢（予定時間 16:00 頃）

■昼食：12:25 頃

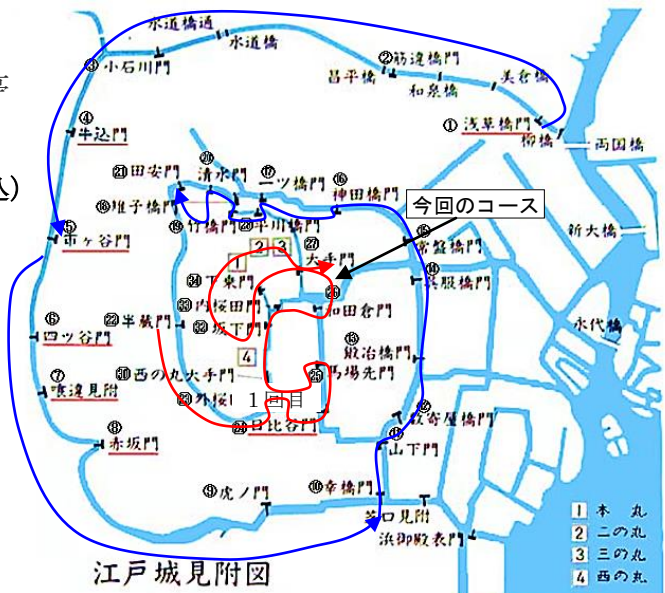
如水会館 橋畔亭

いすどり
彩 御膳

2700 円（税込）

■交通費

約 1080 円



㊦ 北桔橋門 ㊦ 西の丸玄関門(二重橋) ㊦ 中之御門 ㊦ 中雀門

＜⑩西の丸大手門＞江戸城西ノ丸は家康の隠居所として築造されたが、家康が駿府に移ってからは将軍世継ぎの居城となった。慶長19年最初に西の丸下乗橋（二重橋）が架けられ、十年後に西ノ丸大手橋が架橋された。



西の丸大手門には、通称「眼鏡橋」とも呼ばれる「皇居正門石橋」を渡って入る。江戸時代は木橋であったが、明治20年に、現在の石造りのアーチ橋に架け替えられた。

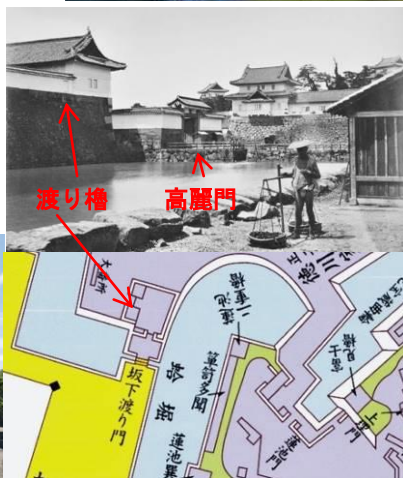


＜⑪西の丸玄関門＞右上の写真は正面石橋越しに望む「伏見櫓」です。伏見櫓は皇居を代表する櫓です。その手前にもう一つの橋が架かっている。こちらが正しい二重橋であり、現在は「正面鉄橋」と呼ばれています。ここは濠が深いので、江戸時代は橋桁を上下二重に組み、橋の上に橋を造ったので「二重橋」と呼ばれていました。しかし現在は鉄橋に改修され、一重の橋となっています。正面鉄橋の先に西の丸玄関門がありますが見えません。



＜⑫坂下門＞江戸時代は、高麗門と櫓門からなる桁形形式で、高麗門から入ると左に曲がって櫓門をくぐる形でした。

しかし明治21年に高麗門は撤去され、櫓門の角度を90度変え、正面に向きを変えて建てなおされました。一般参賀は西の丸大手門から入りこの門から出ます。



坂下門外の変：坂下門外にて、尊攘派の水戸浪士6人が老中安藤信正を襲撃し、負傷させた事件。老中安藤信正は、井伊直弼の後を継ぎ、公武合体政策を進め、皇女和宮降嫁を実現させました。しかし**桜田門外の変**が起きた2年後に再び幕閣が襲われる事件が発生したことで、幕府の権威失墜は加速していきました。

＜③③内桜田門（桔梗門）＞江戸城を最初に築いた太田道灌の泊舟亭があったと伝えられ、その門の瓦にあった**道灌の桔梗家紋**が門名の由来となり、現在の桔梗門の鬼瓦にも桔梗紋が刻まれている。

内桜田門の枡形の蛤濠側に仕切り土塀がないのは、枡形に侵入した敵兵を濠に追い落とす**武者落**として、さらに濠向かい側から攻撃援護するために塀を設けない構造である。

桜田巽櫓：内桜田門から桔梗濠沿いに歩くと、二重櫓が建っている。本丸から見て東南（辰巳）の角にあることから巽櫓、桜田巽櫓あるいは桜田二重櫓と呼ばれている。江戸城には19個の櫓があったが、現在残るのはこの**桜田巽櫓**、**伏見櫓**と**富士見櫓**の3つだけである。

＜②⑦大手門＞大手門は江戸城の正門で、登城する諸大名は、この門から三の丸に入った。すなわち、城郭に備える搦手門（半蔵門）に相対する追手門（大手門）です。

大手門の門前には「下馬」と札が立ち、大名、役高500石以上の役人、高家、交代寄合など、「乗輿（じょうよ）以上」の資格を持つ者以外は、ここで馬や駕籠から降りなければいけなかった。

渡櫓は関東大震災で倒壊。修復されたが、次は昭和20年の空襲で焼失。現在の渡櫓



は、昭和 41 年に、東御苑開園に伴い再建された。

三の丸尚蔵館：展覧会「慶びの花々」を開催中、帰りに見学しましょう。

＜③④**大手三の門**（下乗門）＞大名などの登城ルートは、大手門と内桜田門（桔梗門）から入ると定められていた。どちらの門から入っても、大手三の門に至りその後中之門、中雀門を経て本丸御殿へと入った。

大手三の門は三方を多聞櫓で囲む江戸城唯一の門で、門の前には**二の丸と三の丸を分ける濠**があり、**下乗橋**という橋が架かっていた。この濠は大正 8 年に埋められ、現在は石垣だけが残っている。この門の手前に**下乗**の札が立ち、徳川御三家と日光門主を除き、全員駕籠を降り、この先は徒歩での登城となった。大手三の門の枳形を抜けて二の丸に入ると、広場の左に**百人番所**、右奥には巨大な**大手中之門**が見える。

同心番所：現在は大手三の門の枳形内に移築されているが、濠に架かる下乗橋の手前に同心番所があった。大名達は、この大手三の門で駕籠を降り、同時に家臣の人数も絞られた。残された家臣たちは、ここで主人の下城を待つことになる。

百人番所：百人番所は、大手三の門を守った江戸城本丸最大の検問所である。「百人組（鉄砲百人組）」と呼ばれた伊賀組、甲賀組、根来組、廿五騎組の 4 組が交代で詰め、各組とも与力 20 人、同心 100 人が配置され、昼夜を問わず警護に当たった。

＜③⑤**大手中之門**＞江戸城の門の多くは、高麗門と渡櫓門を組み合わせた枳形門ですが、大手中之門は渡櫓門のみです。中之門は、本丸



の玄関となる中雀門（ちゅうじゃくもん）と一体となって一つの虎口（曲折して出入りする狭い通路）を形成し、百人番所や大番所とともに、本丸防衛上の重要な役割を果たしていました。



現在は石垣だけが残るが、大手中之門の最大の特徴はその巨大さでしょう。この石垣は、明暦の大火の翌年普請され、元禄大地震で倒壊したが、その後修復されました。また平成17～19年に修復を行い、その際交換した巨石が、門の手前に展示されています。

大番所：大手中之門の内側に本丸への最後の番所があった。

<㊦中雀門>本丸に至る最後の門

で、本丸・表御殿の正門にあたるため、「御書院門」とか「玄関前門」とも呼ばれていた。高麗門と渡櫓門の2つの門で枳形を構成し、更に「書院出櫓」と「書院二重櫓」という2つの櫓で守りを固め、本丸への最後の砦を築いていた。



左右の袖石垣は、黒ずんで角は丸くなり、表面にもひび割れが目立つ。この石垣は、明暦大火で焼け落ちた天守閣の石垣を再利用したものらしい。更に文久3年(1863)にも大火で中雀門は焼失している。



<本丸>

江戸城本丸は、表・中奥・大奥の三つの区域に分かれた本丸御殿が広がり、その奥に天守閣があった。

表：幕府の中央官庁にあたり、儀式や謁見、役人達が執務を行なう場

中奥：将軍の公邸にあたり、将軍の起居や政務を司る場

大奥：将軍の私邸に相当し、御台所や奥女中たちが生活していた

この本丸御殿は、残念ながら現在は芝生広場へと変わっています。

富士見櫓：三重の櫓で、万治2年（1659年）に再建されたものが今に残っている。明暦の大火（1667）で焼失した天守に代わって使われ、将軍が両国の花火や品川の海を眺めたとも云われている。

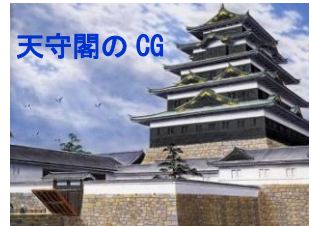


松の廊下跡：本丸御殿の大広間から、将軍との対面の場である白書院を繋ぐ、幅4mほどの畳敷きの大廊下。浅野内匠頭が、抜刀禁止の城内・松の廊下にて吉良上野介に斬りつけた。



富士見多聞：多聞とは城郭の石垣上に建てられた長屋で、鉄砲や弓矢が納められ、戦時には格子窓から敵を狙い撃つなど、城壁よりも強固な防御施設であった。本丸には15棟の多聞があったが、現在残っているのはこの富士見多聞だけである。

天守閣：家康により建てられた江戸城の天守閣は、その後2代目秀忠、3代目家光の時に建て替えられた。家光の建てた寛永天守閣は地上からの高さは58mで、天守閣の基礎石積みの高さ18mで金色の鯨をいただく外観五層、内部六階の我国最大の天守閣であった。



明暦の大火（1657）で焼失したが、会津藩主・保科正之は、「天守はもはや無用の長物、大火の被災者救済と江戸の街の復興が先であろう」と進言し、天守再建は断念された。

現存する天守台は明暦大火後に加賀前田藩により再建された4代目のもので天守台礎石の高さは3mほど低くなっている。現在天守台の二の丸側に見える花崗岩の焼跡は、文久3年（1863）本丸御殿焼失時のものです。明暦の大火で焼跡の残る天守礎石は移設した中雀門で見ることができる。

＜㊤北桔(はね)橋門＞この北桔橋門は、有事の際に大奥など本丸から、直接外部に通じる搦手門として位置付けられている。天守閣に一番近く、背面にあるので、濠を深く・石垣も高くして堅固な防衛力を持っていた。



平川濠と乾濠を分ける土塁は、石垣の手前で大きく切り込みが入り、その上を小さな橋が渡されている。この橋は有事に備え、橋が跳ね上がる仕組みになっており、通常は跳ね上げた状態だったので、現在も高麗門の柱に、跳ね上げるための金具が残っています。



昼食：如水会館

北桔橋門から城外に出て如水会館で昼食を摂ります。昼食後は平川門から江戸城に再入場し、二の丸、三の丸へ。

二の丸庭園：江戸時代二の丸には、小堀遠州が造り、三代将軍の徳川家光の命で改修されたと伝えられる庭園がありましたが、長い年月の間にたびたび火災で焼失し、明治以降は荒廃していました。現在の回遊式の庭園は、昭和43年の皇居東御苑の公開の開始に当り、九代将軍徳川家重の時代に作成された庭園の絵図面を参考に造られたものです。

帰路

大手町駅（丸ノ内線）～池袋経由

所沢帰着 16:00 頃

江戸城三十六見附一覧

2016-5	2017-3	2017-11	2018-11
①浅草橋門	⑥四ツ谷門	⑪山下門	⑫半蔵門
②筋違橋門	⑦喰違見附	⑫数寄屋橋門	⑬外桜田門
③小石川門	⑧赤坂門	⑬鍛冶橋門	⑭日比谷門
④牛込門	⑨虎ノ門	⑭呉服橋門	⑮馬場先門
⑤市ヶ谷門	⑩幸橋門	⑮常盤橋門	⑯和田倉門
		⑯神田橋門	2019-5
		⑰一ツ橋門	⑳西丸の大手門
		⑱平川門	㉑西丸の玄関門
		⑲竹橋門	㉒坂下門
		⑳雉子橋門	㉓内桜田門
		㉑清水門	㉔大手門
*番号は外側から左巻き渦巻状に順に付いている（番号が大きいものは内側）が、行程の都合により順番通りには行っていない。		㉒田安門	㉕下乗門
			㉖中之御門
			㉗中雀門
			㉘北桔橋門

*麴町：元は国府への道で国府路（こうじ）であったが、江戸時代に麴屋が軒を連ねたため。小路が多いという説もある。

*この文書は主に下記のホームページを元に作りました。

- ・[リタイア男の暇つぶしー江戸城三十六見附と江戸切絵図](#)
- ・[大江戸歴史散歩を楽しむ会ー江戸城三十六見附](#)